

INTERVIEW

◎インタビュー／学長在任2期8年間の節目に

私の心をとらえて離さなかつた 金城学院との運命的な出会い。

金城学院学院長であり、同大学学長を2期8年にわたって務められる戸田学長は、消化器病学、保健管理学などが専門の医学博士でもあります。また、俳句や短歌、漫才や落語などが好きな趣味人の一面もお持ちです。そんな戸田先生に金城学院との出会いなどを振り返っていただきました。



金城学院大学
戸田 安士 学長

聖書のほかは、座右の銘は特にありませんが、よく考えればそれにあたりそうなものが3つあります。1つ目は「今に生きる」ということ。2つ目は「すべてのことに時がある」ということ。3つ目は「備えられた道がある」ということです。3つ目を具体的にお話すると、私と金城学院との出会いがちょうどそれだったと思います。

1945年に日本が戦争に負けた時、私は旧制中学生で、ほとんどの青年と同じように何の為に生きていいかを見失い3年ほど悩んだあげく、国が負けても、社会が変わっても、変わらないものために生きようと思いました。そこで出会ったのが医療でありキリスト教で、名古屋大学医学部に入学して、大学の聖書研究会に入ったんです。ところが入学した年

の夏に、父が結核になったため田舎に呼び戻され、家業のため大学をやめる決心をしましたが、ある日突然、ある人から名古屋に呼び出されました。その人は金城学院のアメリカ人宣教師だったスマイス夫人でしたが、私は夫人も金城もまったく知りませんでした。どこから聞かれたのか「あなたは医者を目指すクリスチャン学生だと聞いた。クリスチャンドクターは貴重な存在だからやめてはいけない」とおっしゃるんですね。当時はまだ洗礼を受けていませんでしたし生活のこともあり、困ったなと思っていたら、奨学金を出してあげるとおっしゃるんです。それで大学に戻りましたが、大学での6年間、ちゃんと奨学金を送り続けてくださいました。後で金城に来てから聞いても不思議なことにだれも知らないんです。完全に夫人の個人的な行為だったようで、夫人に私を推薦した人もルートも分からずじまいです。

でもそれは私の生涯を規定しましたね。卒業後、アジアでの無医村医療を志したのも、医学部に残ることになったのもそうです。名古屋大学を定年で辞めてから他の私大に行きましたが、1年たった時に金城から学長として来ないかと声が掛かりました。普通なら金城を断るところですが、スマイス夫人のいきさつから断れませんでしたね。その大学にはわけを話し、1年間は両方に籍を置くことで了解してもらいました。

人生には不本意なことがたくさんあります。医学部で専門を選ぶ時、教授から一番やりたくない「臍臓」を指定されたのもそうでしたが、大学に残ったおかげで数少ない専門医として思い切った研究が許されましたし、数十年の歳月を経てスマイス夫人の恩にも、いささか報いることができました。それが「備えられた道がある」ということだと思っています。

ななせじを
たどりきしま
みちええられて
おもふかな
ありしことを

戸田学長のご趣味の
ひとつが短歌